

平成29年度 年間授業計画

都立竹早高等学校

教科	地理歴史	科目	世界史B	学年	2
担当者	北原・吉岡			単位数	3
使用教科書	山川出版社 詳説 世界史B				
使用教材	使用教材:タペストリー 世界史B10分間テスト				
教科・科目の指導目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				

月	期間	指導内容	具体的な指導目標	予定時数
4月5月	1学期中間考査	オリエンテーション 現在の世界 現在の世界 ヨーロッパ世界の拡大 ルネサンス	1年間の学習内容と世界史の評価方法を理解することができる 1年間の学習内容と世界史の評価方法を理解することができる グローバリゼーション、途上国と先進国、地域紛争の激化と深刻化する貧困などについて理解させる。 大航海時代、アメリカ大陸の征服、商業革命と価格革命、について理解させる。 ルネサンスの本質、文芸と美術、科学と技術について理解させる。	18
6月7月	1学期期末考査	宗教改革・ ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 重商主義 啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出	宗教改革の始まりと広がり、対抗宗教改革、について理解させる。 主権国家体制、イタリヤ戦争、西の全盛期、蘭の独立、仏の宗教内乱と絶対王政、三十年戦争について理解させる。 重商主義政策、市民革命、議会議政治の確立、ルイ14世について理解させる。 北方戦争、ポーランド分割、植民地争奪、奴隷貿易と近代分業システムの形成について理解させる。 植民地争奪、奴隷貿易と近代分業システムの形成について理解させる。	18
7月8月10月	2学期中間考査	アメリカ独立革命・フランス革命とナポレオン アメリカ独立革命・フランス革命 フランス革命とナポレオン① フランス革命とナポレオン② ウィーン体制の成立	独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響、について理解させる。 独立革命とフランスの経済的・思想的背景について理解させる。 フランス革命におけるナポレオンの政策と革命の継承という点を理解させる。 フランス革命におけるナポレオンの政策と革命の継承という点を理解させる。 ナポレオン後のヨーロッパの秩序体制であるウィーン会議について理解させる。	21
10月11月12月	2学期期末考査	ウィーン体制の崩壊 ヨーロッパ再編 ヨーロッパ再編 新統一国家の誕生 南北アメリカの発展	自由主義とナショナリズムの運動について理解させる。 クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編、国民国家の形成過について理解させる。 露・奥・晋の皇帝主導の上からの近代化について理解させる。 ドイツ・イタリアの統一過程について理解させる。 ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡張について理解させる。	21
12月1月3月	学年末考査	南北アメリカの発展 オスマントルコ帝国支配の動揺と西アジア諸地域の変容 オスマントルコ帝国支配の動揺 西アジア諸地域の変容 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動	アメリカ合衆国の南北戦争およびその後の発展について理解させる。 西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン、アフガニスタンの動向を理解させる。 西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革について理解させる。 アラブ諸民族の覚醒、イラン、アフガニスタンの動向を理解させる。 インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解させる。 清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編、帝	27

評価の観点・方法	ノート提出・定期考査・授業態度
----------	-----------------